

#### 4. ユーラシア大陸の東西をつなぐ鉄の伝播路 ユーラシアメタルロード

「草原と森林限界に沿って製鉄跡がいくつも点在する」

このことはユーラシア大陸の東西を結ぶ Iron Road 鉄文化の伝播路を考える上で重要な発見。

BC1 世紀 匈奴がモンゴル草原を支配している時代すでに「東西ユーラシアの鉄文化の東伝の道がユーラシア大陸中央の草原と森林限界を西から東へ伝うように伸びている」今確認された最西端は西シベリア・バイカル湖西岸。

日本海沿岸まではもうすぐである。



日本で製鉄が始まる 5 世紀後半 製鉄技術と人が交流した Iron Road がこの草原利道につながっている可能性が出てきた。

たのしみな「ユーラシアメタルロードの探求」のプロジェクトである。

モンゴルで発掘された製鉄炉跡に興味津々出でかけた「鉄と匈奴」のシンポジウム。

ユーラシア大陸草原に Iron Road を形成する製鉄遺跡群へとつながっていることを知って、今後の研究の進展に期待大。

また、品質の悪い素材しかできそうもない小型の製鉄炉で作られた小鉄塊でも、それを鍛冶技術で補って、高度な鉄器製造を作り上げるモデルがあることにも興味津々。

蕨手刀と東北の古代製鉄やそして堅型炉に伴って地方から突然現れた踏み鞆などなど

地方の古代製鉄技術を見直すきっかけになるかもしれない。

謎だらけの日本のたたら製鉄を解く糸口が見つかるのでは??と

今後の展開に興味深々な愛媛大学「ユーラシアメタルロードの探求」のプロジェクト。

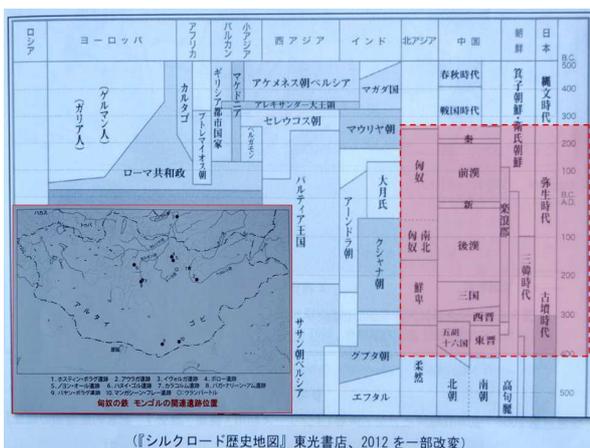
また来年の秋のシンポが待ち遠しい。

2013. 11. 20. 「鉄と匈奴」のシンポを聴講して

MUtsu Nakanishi

#### 【参考・引用】

1. 第六回国際学術シンポ「鉄と匈奴 遊牧国家像のパラダイムシフト」予稿集 2013. 11. 9. 愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター
2. 第六回国際学術シンポ「鉄と匈奴 遊牧国家像のパラダイムシフト」講演者発表スライドより
3. 11月20日朝日新聞 朝刊記事 「匈奴の製鉄炉跡 ホスティング・ボラグ遺跡発見」



(『シルクロード歴史地図』東光書店、2012 を一部改変)